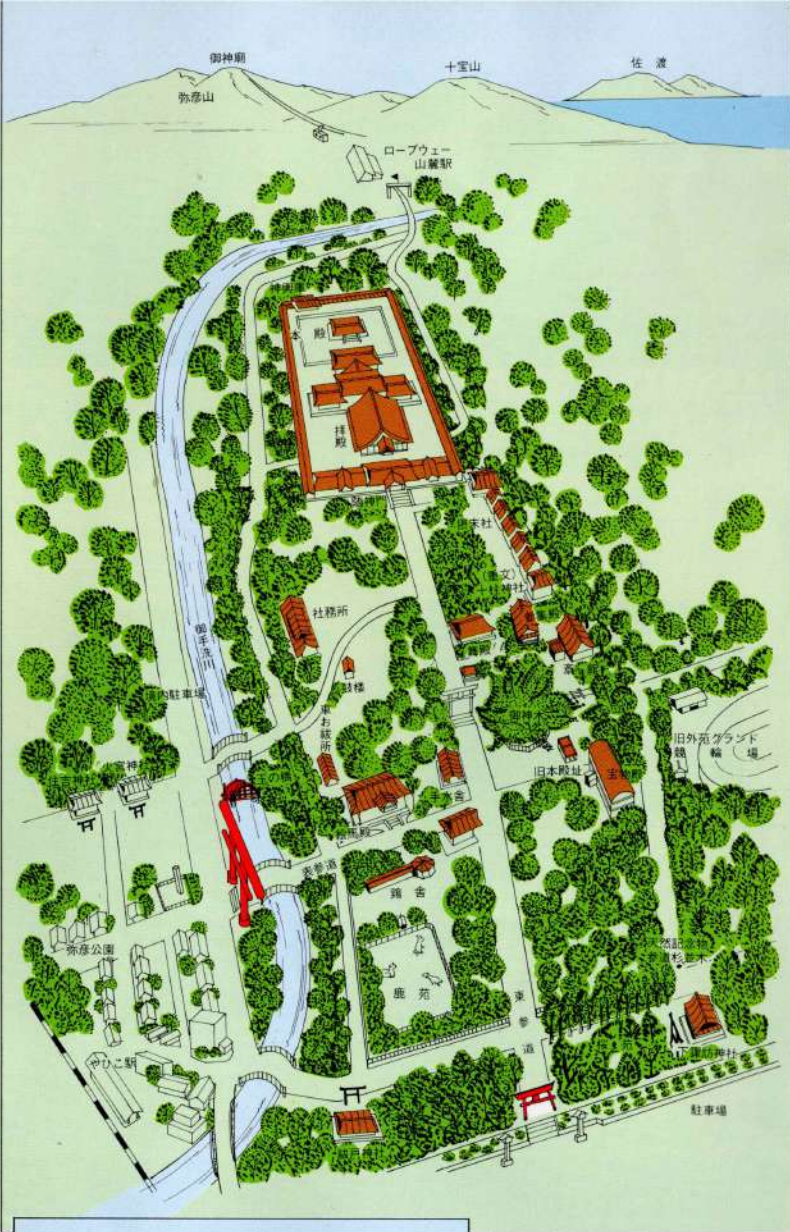




## ★交通のご案内

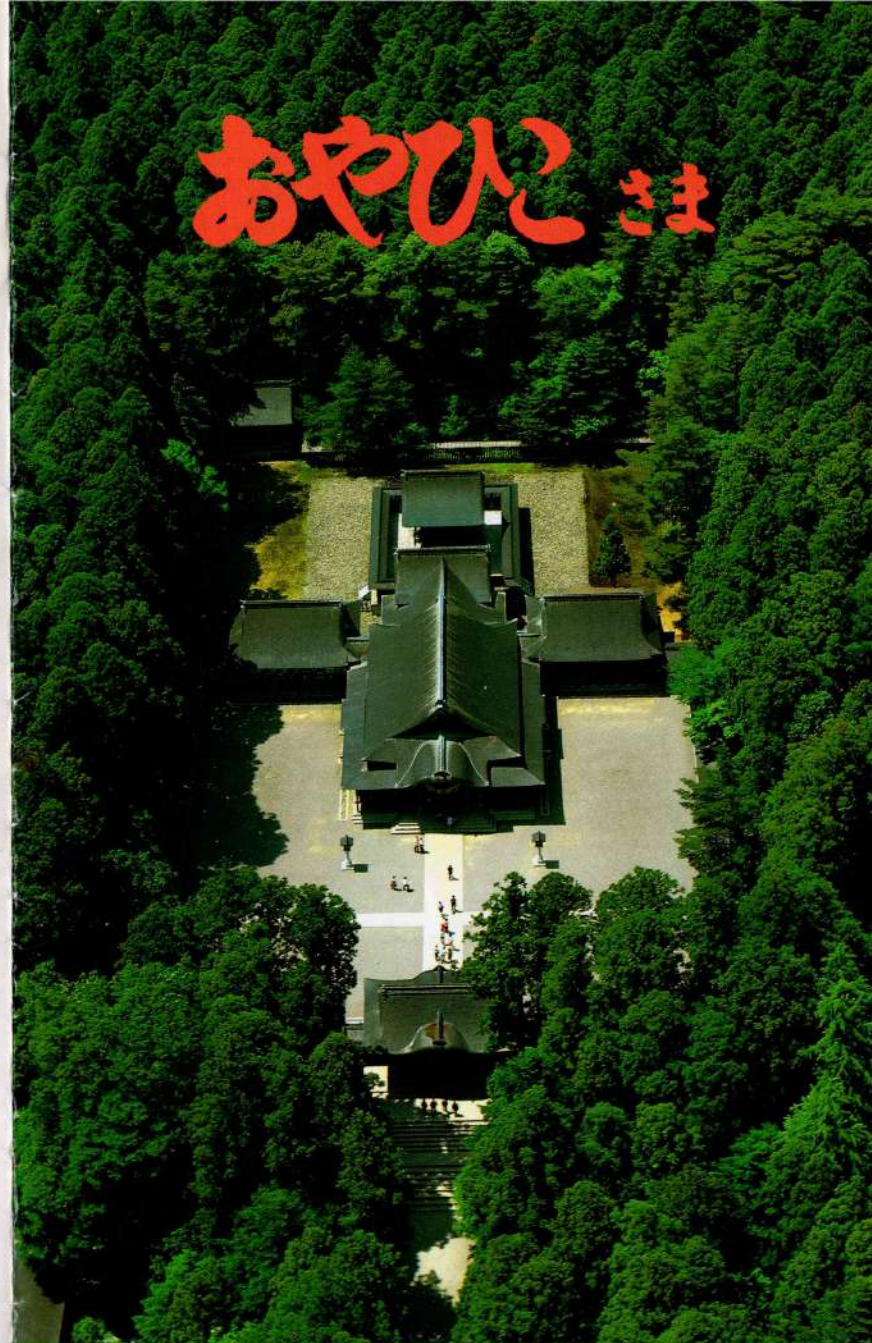
### ＜新幹線・国鉄＞

- ① 上越新幹線 燕三条駅で弥彦線に乗り換え、終点弥彦駅。タクシー利用は13km・30分 弥彦駅より神社まで1km・徒歩10分。
- ② 国鉄上信越線 東三条駅、又は越後線吉田駅で弥彦線に乗り換え、終点弥彦駅。タクシー利用は東三条より18km・40分。
- ③ 新潟～燕三条駅～弥彦 高速バス、新潟～弥彦 路線バスあり。

### ＜自動車＞

- ① 関越・北陸自動車道三条燕ICより13km。
  - ② 国道8号線三条より15km、国道116号線吉田より4km。
- 神社周辺には無料大駐車場あり。

# おやひこま



## 彌彦神社社務所

新潟県西蒲原郡弥彦村大字弥彦

〒959-0393 / ☎0256-94-2001



## 越後一宮 彌彦神社

広々とした越後平野の中央に聳えたつ弥彦山の麓に鎮まります彌彦神社は、古くから“おやひこさま”の敬称で広く親しまれております。

境内はうっ蒼たる樹林に覆われ、亭々たる老杉、古樫は見るからに神々しく最も古い歌集の万葉集にも

いやひこおのれ神さび青雲の棚引く日すらこさめそはふる

と歌われております昔ながらの神奈備の森です。

緑に映える朱色の一の鳥居を入るとすぐに弥彦山からの清流・御手洗川を渡りますが、その上方に御神橋・玉ノ橋が架っており、いっそう荘厳な雰囲気を感じ出しております。石畳の参道右側には神苑があり、巨木に交って里桜も多く、春には可憐な花を咲かせ、参拝者の眼を楽しませてくれます。

その神苑には鹿苑があり、10数頭の鹿が群れ遊んでおります。この鹿は古来神鹿と称せられて同じく万葉集に

いやひこ神の麓に今日らもか

鹿の伏すらむ皮服(かはごろも)着て角つきながら

と詠まれています。参詣者を今なお遠い万葉の古に引き込んでいます。

## 御祭神

御祭神は天照大御神の御曾孫(ひまご)にあたる天香山命(アメノカゴヤマノミコト)です。

高天原より神々が天降り遊ばされた折にご一緒に降り、紀州熊野に住み、神武天皇のご東征の時、師霊(フツノミタマ)の剣を奉って大功を立てられました。

神武天皇が国家統一を終え、大和の橿原の宮でご即位になられた4年後に今度は越後地方の開拓経営の命を受け、日本海の荒海を舟で渡られ、はるばる越後の国の野積浜にご上陸になりました。

そこで早速、漁民に海水を焚いて塩を作ることや網、釣針を用いて魚を獲る術を教えられた。さらに弥彦に宮居を定められてから蛮族を平定され、住民に稲作の道をご指導遊ばされました。

また、6代の御子孫も協力、継承して、越後地方の産業文化の基礎を造られました。つまり越後開拓・文化産業の始祖神です。

当神社は越後開発の神と仰ぎ、この地に奉祀したのがはじまりで、その年代は詳かではありませんが、万葉歌から推定して、今から1,300年以前であることが明らかです。社記によれば和銅4年(711)の詔により神域を拡張、社殿を造営したとあり、この時すでに神社が創建されております。



## 御社殿

現在の御社殿は明治45年に門前町から出た火の延焼に遭って炎上したため、大正5年に造営されたものです。

本殿は三間社流造向拝付、回縁高欄、脇障子を具え、銅板葺き。幣殿も三間社流造、大床昇階擬宝珠高欄を付し、銅板葺きです。祝詞舎は20坪両流箱棟造りで、それにつづく拝殿(50坪)は入母屋造、向拝、裳階付きの銅板葺きです。



## 重文・十柱神社



## 摂社・末社

越後の開発は御祭神の御子孫神たちが継承遊ばされ、産業文化の基礎が築かれました。妃神・熟穂屋姫命(ウマシホヤヒメノミコト)をはじめ6代の神々を祀る摂末社が境内・境外の各所に御鎮座されています。

末社十柱神社は室町時代の手法を伝える元禄年間の萱葺きの建物で、昭和25年重要文化財に指定されました。

## 御神木

旧本殿跡のそば(第二鳥居附近)に石柵を囲らした椎の大き木がこんもりと茂っております。これが御神木です。

社記によれば御祭神が携えられた椎の杖を地中に挿され、この地が自分の住むべき土地ならば繁茂せよ、と仰せられたところ、芽を出し根をはり、たちまち大木になったと伝えられています。



## 御神廟

御祭神並びに妃神の御廟(奥宮)で、弥彦山山頂(標高638m)にあります。



## 境内並びに施設

境内はおおよそ13ヘクタール(約4万坪)で、樹令4~500年以上の老杉古樺に囲まれ、御本殿の背後は標高638mの霊峰・弥彦山で、その境内林・社有林はおおよそ200ヘクタール(約60万坪)です。

境内には舞殿、斎館、絵馬殿、参集殿、鼓楼、宝物殿、社務所などが建られています。さらに境内に万葉の昔を偲ぶ鹿苑があって10数頭の神鹿が遊び、鶏舎には県内愛鶏家の協力を得て、わが国在来の10数種の鶏を飼育しています。いずれも天然記念物に指定されています。

また、外苑の弥彦公園は、13ヘクタール(約4万坪)の名園で知られております。





## 日本一の大鳥居

弥彦山の御神廟を中央に仰ぐ道に昭和57年に建立したものです。

高さ30.16m、柱間20.0m、笠木38.5m。社号額畳12枚敷(3.5×5.5m)。耐候性特殊銅製です。



## 舞楽 (重要無形民俗文化財)

神歌楽(かがらく)は神武天皇ご即位の大典の際、彌彦大神自ら奉奏したと伝えられる舞で、天犬舞(あまいぬのまい)とともに一社伝来の秘舞として燈籠神事に奏されます。

このほか、大々神楽、小神楽とともに国の重要無形民俗文化財に指定されています。

## 燈籠神事 (重要無形民俗文化財)

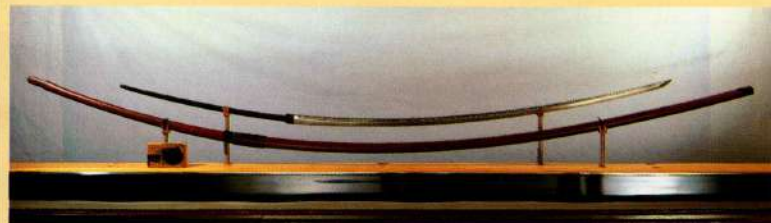
毎年7月25日に執りおこなわれます。この前後にも各種の儀式があって18日から26日まで祭儀がつづき、25日早朝には古式に則って大御膳を献じて祭典が執行され、午後9時から神輿が村内を渡御されます。

これに県内各地から20余台の大灯籠が供奉し、さらに数百に上る小灯籠が前後に供奉し、頗る壮観です。



## 宝物 志田大太刀 (重要文化財)

応永22年(1415)に古志郡夏戸の志田三郎定重が奉納したもので、刃渡2.2mの巨大な太刀です。



## 青磁香炉 (重要美術品)

越後国守松平忠輝が慶長17年、(1612)に奉納したもので、高さ15cm、口径20cmの大香炉です。



## 大鉄鉢 (重要文化財)

嘉暦元年(1326)に奥山庄中条(現在の中条町)の相次郎孝基が奉納したもので、高さ34.5cm、口径59cmの巨大な名器です。



## 菊まつり

毎年11月1日から24日まで新潟県菊花連盟による奉納菊花展が行われます。県内各地より、6,000点に及ぶ大菊の数咲きをはじめ中菊の古典菊や小菊懸崖、盆栽等が境内一杯に展陳され、御神慮をお慰め奉るとともに、期間中数十万の参拝者の眼を楽しませております。

特に3万本の挿芽小菊によって造園される“大風景花壇”は人気を集め、正に日本一の菊花展にふさわしいものとなって人気を呼んでおります。

